

正解はひとつだけではない

ジェフバーグランドさんは、現在、京都の大学で教授をしてみえます。二十歳のころ、アメリカから日本へ留学されました。当時は、日本の文化が分からず、新しい発見の連続だったそうです。最初に、日本の学生の家へ案内されて、靴のまま入ったら、シューズを脱がないといけないと言われました。アメリカでは、朝起きてベッドから出た時に靴を履いたら、夜寝るまで靴を履いている生活でした。靴を脱ぐことを教えてもらって、靴を脱いで上がると、足の裏が心地よかったそうです。アメリカ人は、足の裏から得る情報はほぼありませんが、日本人は、足の裏から受け取る感覚が発達しています。

雨が降ったら、とても嬉しかったそうです。ジェフバーグランドさんは、アメリカの中心部の出身で、ほとんど雨が降らない気候のところでした。傘を差すのも初めてだったそうです。今でも雨の日は大好きだそうです。

日本で食べた食事は、旅館の朝食でした。お膳の上に、白いご飯が入った茶碗、お味噌汁の入ったお椀、卵が1つ、梅干し、焼き海苔、焼いたお魚等が載っていました。ほとんどの物がはじめてです。卵だけが見たことがありました。当然、ゆで卵だと思って割ったら生卵でした。仲居さんが生卵の食べ方を教えてくれました。醤油を入れてかき混ぜた卵を、白く美しいご飯に入れて、ぐちゃぐちゃにかき混ぜて食べるのです。見た目がおいしそうではありませんでした。しかし、食べてみると、とてもおいしかったのです。梅干しは、チェリーだと教えてもらったので、甘いチェリーを想像して最後に食べたら、酸っぱくてとても食べられませんでした。でも、今ではわざわざ和歌山から7段階の上から2つ目の酸っぱさの梅干しを取り寄せるくらい大好きだそうです。皆さんにも、小さい頃苦手だった食べ物が、大人になったら大好きになったというものはありますか。

「自分の体の一部を変えられるなら、どこを変えますか。」という質問に、大人は、「目が二重になってほしい。」「足が長くなってほしい。」と答えるのに対して、子どもは、「羽が欲しい。」「猫のようなしっぽが欲しい。」と答える子が多いようです。大人は現実的な答え、子どもは夢のある答えをするそうです。

自分はこうでなければいけない、相手はこうでなければいけないと決めつけるのではなく、正解はひとつだけではないことに気付き、考えの違う相手を認めましょう。自分が変わったことに気付いた時、自分とは違う考えに触れた時、初めての感覚を経験した時等、これが生きている楽しさではないでしょうか。